

愛知学院大学人間文化研究所規程

(名称)

第一条 本研究所は、愛知学院大学人間文化研究所と称する。

(所在)

第二条 本研究所は、これを愛知学院大学文学部に置く。

(目的)

第三条 本研究所は、人間文化に関する総合的な研究を行い、その発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第四条 本研究所は、その目的達成のために下記の事業を行う。

- 1 人間文化に関する研究・調査・資料収集
- 2 海外との学問的交流
- 3 研究成果の刊行
- 4 講演会・研究会
- 5 その他必要な事業

(機関誌の電子データ公開)

第五条 本研究所の刊行する機関誌等に掲載された論文などの著作について、執筆者は電子データの公開に関わる権利を本研究所又は本研究所の依頼する機関に委託するものとする。ただし、執筆者本人が利用・公開することを妨げない。

(構成)

第六条 本研究所は、所長・所員及び研究事務担当職員をもって構成する。

(所長)

第七条 所長は文学部教授会の議を経て、所員たる文学部教授の中から学長が委嘱する。

所長は本研究所を代表し、研究所及び事務全般を統轄する。

(運営委員)

第八条 所長は文学部教授会の議を経て、五学科より運営委員若干名を委嘱する。

運営委員は所長の職務を補佐する。

(所長・運営委員の任期)

第九条 所長及び運営委員の任期は二年とする。ただし、研究遂行上特に必要と認められる場合は、文学部教授会の議を経て、任期を延長することができる。

(所員)

第十一条 本研究所の所員は、文学部専任教員全員をもって充てる。

(特任研究員)

第十一条 本研究所に研究の必要上、研究所所員と共同して研究することを目的として、特任研究員を置くことができる。

2 特任研究員は、運営委員会の議を経て所長が推薦し、学長が委嘱する。

3 特任研究員の任期は一年とするが、運営委員会の議を経て所長が推薦し、学長が委嘱し、更新することができる。

4 特任研究員は無給とする。

5 特任研究員に対して独自に予算処置を行うことはできない。

(運営委員会)

第十二条 運営委員会は、所長と運営委員をもって構成する。運営委員会は所長が議長となる。

(予算・決算)

第十三条 本研究所の研究費・運営費は、愛知学院大学の年間予算その他をもって充てる。

(規程の改廃)

第十四条 本規程の改廃は、人間文化研究所運営委員会及び文学部教授会の議を経て、学長が決定する。

(事務取扱)

第十五条 本規程に関する事務は、人間文化研究所にて行う。

附則

本規程は、昭和五十六年七月十日より施行する。

本規程は、昭和六十一年四月一日より施行する。

本規程は、昭和六十三年四月一日より施行する。

本規程は、平成十一年二月十二日より施行する。

本規程は、平成十五年四月一日より施行する。

本規程は、令和五年四月一日より施行する。

〔編集後記〕

このたび、人間文化研究所紀要『人間文化』第三十八号を無事に刊行することができました。本号には、論文七編、書評一編、翻訳・訳注一編が掲載されており、多彩な内容となっております。

人間文化研究所の事務をご担当いただいている松原さんには、本号の編集作業を進める過程で、折々にご助言をいただきました。記して深く御礼申し上げます。

昨年よりも猛暑日の日数が多い今夏、涼を求めたわけではありませんが、国立劇場・伝統芸能情報館にて企画展「怪談物のつくりかた」を、名古屋博物館にて特別展「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」を観てきました。芝居絵、小道具、妖怪画等々を味わいながら、あらためて実感したのは、見えないものを形象化する人間の営為の豊かさ、文化が継承されてゆくその力強さでした。

さまざまな言葉、情報が溢れかえる日々のなかでは、「古い」ものは「新しい」ものに押し流されてしまいがちで、そうした状況には目がくらみそうになります。現代に身を置いたちにとつては、過去、現在、そして未来へとつながる人間文化のありようと向き合い、丹念に思考することが、今後ますます求められてくるでしょう。そのための場として、この『人間文化』があり続けることを願っています。

(吉田遼人 記)

人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 第38號

令和5年9月10日印刷

(非売品)

令和5年9月20日発行

編集兼発行者

愛知学院大学人間文化研究所長 伊藤 雅之

〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12番地

電話 0561 (73) 1111 (内線1875番)

印刷所 株式会社 あるむ

執筆者紹介

| | |
|------|-----------------------|
| 松井真子 | 文学部教授 (オスマン帝国史) |
| 芝奈穂 | 文学部教授 (イギリス文化) |
| 野口朋香 | 文学部准教授 (コミュニケーション学) |
| 木村文輝 | 文学部教授 (インド哲学・仏教学) |
| 竹下修子 | 文学部教授 (家族社会学) |
| 花岡和聖 | 立命館大学文学部准教授 (地理情報科学) |
| 石川義孝 | 京都大学名誉教授 (人口地理学) |
| 上田恒雄 | 文学部教授 (英語教育学) |
| 藤田賢 | 文学部教授 (英語教育学・応用心理言語学) |
| 中村敦子 | 文学部教授 (イギリス中世史) |
| 安藤充 | 文学部教授 (アジア研究) |

LIST OF THE CONTRIBUTORS

Masako MATSUI, Professor of Ottoman History
Naho SHIBA, Professor of British Culture
Tomoka NOGUCHI, Associate Professor of Communication Studies
Bunki KIMURA, Professor of Indian Philosophy and Buddhist Studies
Shuko TAKESHITA, Professor of Family Sociology
Kazumasa HANAOKA, Associate Professor of GIScience
Yoshitaka ISHIKAWA, Emeritus Professor of Population Geography
Tsuneo UEDA, Professor of English Education
Ken FUJITA, Professor of English Education and Applied
Psycholinguistics
Atsuko NAKAMURA, Professor of Medieval English History
Mitsuru ANDO, Professor of Asian Studies